

子どもの心の成長における音楽の必要性

— FCT 郡山少年少女合唱団の役割りと可能性について—

会津大学短期大学部 社会福祉学科 非常勤講師
FCT 郡山少年少女合唱団常任指揮者 渡部昌之

I. はじめに

筆者は平成2年から伴奏者として、平成11年からは常任指揮者としてFCT 郡山少年少女合唱団¹の指導に携わってきた。これまで多くの卒団生を送り出してきたが、現代社会に生きる子どもたちに最近強く感じることもある。それは、パソコンや携帯電話、メール、LINE等でのコミュニケーションやゲーム、また、核家族、両親の共働き、一人っ子など環境の変化により、友達や先輩、大人や高齢者達との直接的人間関係の結びつきも希薄になり、子どもが本来人と人との関わり合いの中で生きていく中で身に付けていく感性、情操、忍耐力、協調性、思いやりの心といった心の成長が、育ち難くなっているのではないかということである。

音楽教育は、音符が読めること、正しいリズムが打てること、正確なピッチで歌えること、これらに加え、感性を磨く、情操、忍耐力、協調性、思いやりの心を養うといった心の成長を伴ったものでなければならない。

FCT 郡山少年少女合唱団では合唱を通してさまざまな体験をすることにより、自分の目で見て肌で感じて吸収し培った経験を音を通して表現してきた。本論では子どもの心の成長にとっての音楽の必要性、重要性について、合唱ステージ、オペレッタステージ、遠征、出前演奏、CD制作、事例の観点から考察を行う。

II. FCT 郡山少年少女合唱団の活動

1. 合唱ステージ

正確なピッチ、調和のとれた美しいハーモニー、歌詞の意味を理解し統一された発声法で歌うことは、観客を前にした合唱のステージでは当然の事である。しかし、コンクールで賞を取る事を最大の目標とする合唱とは違い筆者が目指す音楽は別のところにある。

会場に足を運んでくださった観客が、団員の歌を聴いて優しい気持ちになったり、心が温かくなったり、幸せな気持ちになったり、思わず一緒に踊り出したい気持ちになったり、如何に喜んでもらえるかが重要なのである。自己満足のために歌うのではなく、聴きに來てくださった観客のために歌うのだ。そのためには団員自らが歌う喜びと感動を持ち、合唱にとって大切な、心を合わせそして楽しんで歌える内容にしなければならない。ソロで歌ったりグループで歌ったり、振付やダンスしながら歌ったり、テーマに沿った衣装を着たり、小道具や照明を使ったり、工夫しながらステージを作り上げていく。勿論あくまでも基礎となる歌唱がしっかりと出来ていることが前提である。



2. オペレッタステージ

毎年行なう定期演奏会の中で必ずオペレッタのステージを取り入れている。

オペレッタとは、小規模なオペラという意味で、日本では〈喜歌劇〉〈軽歌劇〉などと訳される。歌、舞踏、台詞を含む陽気でユーモアのある音楽劇のことであるⁱⁱ。元来子どもは多くの人と触れ合い関わりを持ち、その中でお互いの存在を意識し認め合いながら創造性と豊かな感情、表現力、忍耐力、感性、協調性を培っていく。しかし現代社会に生きる子どもたちはこれらの事が大変苦手である。これは、パソコンや携帯電話、メール、LINE等でのコミュニケーションやゲーム、また、核家族、両親の共働き、一人っ子などの影響も多いのではなかろうか。

そこで、子どもたちに豊かな創造力、表現力、感性を身につけさせるためにオペレッタを取り入れた。そしてもう一つオペレッタを取り入れる理由がある。幼稚園児と高校生では身体の発育度による声帯の大きさ、声量、音域、声質、などに大きな差が生じるため一緒に演奏することは極めて困難である。しかしオペレッタのステージは、幼稚園児、小学生、中学生、高校生とそれぞれ声量、音域、声質に合わせた役柄を分担することで可能になる。

配役は、登場人物のキャラクターに団員の個性が反映されるように考慮して決めていく。伴奏にはシンセサイザーを数台使用し、曲に合った音色を作る。演奏効果をあげるため効果音や照明も有効に活用する。衣装は振り付け担当の指導者と団員の保護者の皆さんが何度もミーティングを開きながら作成する。歌はソロ、デュエット、学年ごとのグループ、役ごとのグループ、全員など、様々な形態の中から各場面に合ったスタイルを選択する。

振り付けは、場面によっては団員たちに任せる場合もある。団長を中心に話し合い、考えさせる。そうすることで、団員一人一人の心に自分たちで創り上げるんだという責任感と団結力が生まれ、休憩時間であっても、ダンスの得意な団員は苦手な団員にアドバイスをしない、台詞の得意な団員は苦手な団員の読み方の練習に付き合うなど、自発的に集まって練習をする光景があちこちで見られるようになる。

人との関わりの中で自分の気持ちを伝え、相手の気持ちを理解する事は、思いやりの心、協調性、また将来の社会生活に必要な社会性などのコミュニケーション能力が養われていく。沢山の方たちに支えられ、時には意見がぶつかり、その都度団員全員で話し合いを行ない、悩みながら、協力し合いながら創り上げたオペレッタのステージから得られる喜び、及び達成感は「やれば出来る」という大きな自信となって子どもたちを大きく成長させるのである。



図 2

3. 遠征

筆者が常任指揮を務める FCT 郡山少年少女合唱団では毎年遠征を行い演奏会に参加している。

その目的は、次の四点である。

- ①演奏の機会を沢山もつことで精神的な強さを身につける。
- ②同世代の子どもたちと交流を深め、友情の輪を広げる。
- ③言葉や習慣の違いなど文化の違いを実際に自分の目で観て耳で聴いて肌で感じる事により、見識を深め、心の器を豊かにするⁱⁱⁱ。

④団員どうしの絆を深めることにより「自分を信じる」「仲間を信じる」心を育てる。中でも特に重視しているのは、団員どうしの絆を深めることにより得られる「自分を信じる」「仲間を信じる」心の育成である。

核家族化が進み兄弟がいらない所謂一人っ子として日々の生活を送っている子どもが増加している現代社会に於いて、小学生～高校生まで幅広い年齢の同じ目的を持った子どもたちが寝食を共にすることで、相手を思いやる心、仲間意識、協調性がさらに強くなる。高学年の団員は低学年の団員の面倒を見、低学年の団員は将来自分も後輩から尊敬され憧れられる人間になろうと努力する。相互作用の力が働くことで絆は一層深まり、そうして育てられた心は柔軟、かつ太い芯の通った強い心へと成長するのである。



図 3

4. 出前演奏

FCT 郡山少年少女合唱団では病院、福祉施設、

イベントなどから依頼を受け、出前演奏と称して演奏を行っている。その中で、毎年敬老の日に訪問しているデイケア施設での演奏について記す。

デイケア施設で演奏を行なう目的は、高齢者のみなさんに子どもたちの演奏を喜んでいただくのはもちろんであるが、高齢者と交流することで、高齢者を大切にする優しい心、いたわりの心、温かい心を身に着け、恐いとか汚いとか臭いとかいった一部の子どものみられる高齢者に対する否定的高齢者観を払拭する事にある。

施設の利用者が高齢であることを考えトータル 1 時間のステージを行なうのであるが、お年寄りとの心のふれあいもデイケア施設訪問の大事な目的の一つであるため、演奏だけではなく必ずお手玉や紙風船と一緒に遊ぶこともプログラムの中に取り入れている。

開始直後は緊張気味の様子のお年寄りであるが、時間の経過とともに笑顔になり手をたたいて喜ぶ姿があちこちで見られるようになる。ただ高齢者によっては子供が苦手な人や疾患、障害により日常生活に何らかの支障をきたしている人もいる。また、高齢者は免疫力が低下しており健康面についても配慮しなければならない。これらの事を事前に施設側とも十分に協議する必要がある。

演奏終了時には団員全員がお年寄り一人一人と握手をしてお別れをするのだが、子どもの手を握って涙を流すお年寄り、子どもの頭を撫でながら話しかけるお年寄りなど、お年寄りの純粋で優しい心に数多く触れることは核家族の中で生活することの多い現代社会に生きる子どもたちの心の成長にとって必要かつ重要な事である。



図 4



図 5

5. CD『少しずつ歩いてゆこう』の制作

2011 年 3 月 11 日東北地方に大打撃を与えた東日本大震災はそこで暮らす人々の生活を一変させた。福島は原発事故により更に深刻な状況へと追い込まれた。練習が再開出来た時、未曾有の大災害にも拘わらずほぼ全員集まった子どもたちはみんな笑顔でお互いの無事を喜び合っていた。「原発事故の影響が続く中であっても明るく前を向いて歩いて行こうとする子どもたちがいるという事を多くの人に知っていただきたい。そして応援して下さるたくさんの方々に感謝の気持ちを歌に込めて形あるものを残したい。」そんな強い思いから CD『少しずつ歩いてゆこう』^{iv}を作る事となったのである。

2014 年 3 月、春休みを利用してホールを 3 日間貸し切り録音を行った。不安と緊張の中 9 時から 17 時まで合唱の録音を、そのあとソロの録音を行うというハードなスケジュールの中で行われた。曲によってはピッチがずれてしまったりテンポが合わなかったり発音が不明瞭だったりして OK が出せず何度も録り直しをしたのだが、集中力が途切れることなく全員が一つの目標に向かって心をつなげて全 9 曲の録音に取り組んだ。

すべての録音収録が終了した時、当初不安と緊張でこわばっていた子どもたちの表情は解放感と充実感、達成感で満ち溢れとても晴れ晴れとしていた。「感謝の気持ちを形あるも

ので残したい」という強い覚悟で臨んだCD制作は、音楽と共に成長していく子どもたちの心(向上心、集中力、諦めない、協調性、助け合う)を一段と強くしたのである。



図 6



図 7

Ⅲ．子どもの心の成長における音楽の必要性～A 子の事例から～

子どもたちの心の成長にとって、音楽の果たす役割がいかに重要であるかについて述べてきた。ここで FCT 郡山少年少女合唱団で実際にあった出来事を紹介する。

A 子は、7 月の定期演奏会を観て自分も歌ってみたいという理由から、小学 6 年の夏に合唱団に入団した。いつも笑顔でハキハキした明るい性格で直ぐに団員たちとも仲良くなり、休憩時間には大きな声で笑っている元気溢れる女の子だった。翌年の 1 月、定期演奏会に向けてのオペレッタの役が決まると積極的に振り付けや台詞を覚え、低学年の面倒を見るなどリーダーとしての資質が垣間見られる様になった。

そんな A 子に変化が見られたのは中学 3 年の 6 月である。クラスの中でいじめを受けたのである。元々正義感が強い気質であったため、クラスでいじめを受けていた同級生を庇ったところ今度はいじめグループから自分がターゲットになってしまったのである。しかし丁度、学校が夏休みに入り、いったん落ち着いたかに思えたのであるが、2 学期に入ると A 子の様子がさらに悪化していた。いつの間にか庇っていた同級生までがいじめグループに取り込まれ、存在自体を否定され孤立してしまったのである。合唱練習時の顔色は悪く、眼には生気が無く、トレードマークの笑顔も消え、歌を歌っても心が入っておらず全く元気がない。遂には自傷行為におよび、学校に登校出来ない状況になってしまった。たとえ勇気を出して登校しても、どうしても自分の教室に入ることが出来ず保健室で一日を過ごすという日々が何日も続いた。

しかしそんな状況であっても合唱団の練習には毎週参加していた。それは何故か。彼女にとって唯一心が安らげる居場所が合唱団だったのである。人を信じる事が怖くなってしまい、自分を見失いかけ、自信をなくしてしまった A 子に団員たちはそっと寄り添い、A 子の話に耳を傾け、励まし「決して独りぼっちじゃないよ。みんなが応援しているよ。大丈夫。」という言葉を送り続けた。ありのままを受け入れ、認めて、心の中の苦しみを共有し、心からサポートする仲間たちの優しさに触れることで自分の存在、生きている価値、信じ

合える仲間の大切さなど、たくさんの事を吸収しながら少しずつ元気と自信を取り戻していった。そしてその年の12月に行われたチャリティーコンサートのオペレッタステージでは主役を演じ、会場からは温かい拍手がいつまでも鳴り響いていた。

その後A子は父親の仕事の都合で県外の高校に進学していったが、お別れの挨拶の中で「あの時、合唱団の仲間だけが自分という人間の存在を認めてくれた。心が折れそうになった自分を励ましてくれた。合唱団のおかげで立ち直る事が出来た。心が強くなった。これからは自分が誰かの役に立てよう頑張りたい。FCT 郡山少年少女合唱団は、自分にとって心の財産です。」そう言って笑顔で合唱団を卒団していったのである。



図 8

IV. おわりに

人は一人では生きていくことはできない。自然の恵みそして、直接的にも間接的にもたくさんの人との関わり合いの中で協力仕合い、認め合い、支え合いながら生きていく。幼少期のうちから友達や先輩、大人や高齢者との人間関係の結びつきを深め、そこからたくさん経験し学習することによって心が成長し、将来心の豊かな人になるのである。音楽は、子どもの心の成長にとって大切な、感性を磨き豊かな心を育てる重要な役割を担っているのである。

そして音楽は、現代社会に生きる子どもたちにとって、人として大きく成長できる環境でなければならない。

【注と文献】

ⁱ FCT 郡山少年少女合唱団は1975年「あさか少年少女合唱団」として故鈴木多美子氏によって創設された。その後、1984年に「郡山少年少女合唱団」1990年に「FCT 郡山少年少女合唱団」と改名し現在に至る。現在、幼稚園年長児から高校3年生まで在籍しており、毎年夏の定期演奏会、冬のチャリティーコンサートを中心に、福祉施設、イベントなどで演奏を行っている。

ⁱⁱ 野口久光著「オペレッタ」所収：『標準音楽事典』第1版、音楽之友社、167頁～168頁

ⁱⁱⁱ FCT 郡山少年少女合唱団では、2010年にハンガリー・オーストリア、2012年にアメリカ、また国内でも北海道、群馬、山梨、東京、横浜、神戸、奈良など多くの遠征をしてきた。ハンガリーではブタペストのドナウ・パロタホールで《とおoryゃんせ》《かごめかごめ》など日本の歌を演奏した。アメリカ遠征では、ロサンゼルスシティーホールで《OhHappyDay》《AveMaria》《ほたるこい》《村祭り》などを演奏した。

^{iv} CD『少しずつ歩いていこう』（BRL001 BrillanteStudio）

作詞作曲：Rynco 編曲：渡部昌之 指揮：渡部昌之 構成：渡部昌之

収録曲《少しずつ歩いてゆこう》《ありがとう・と・ごめんね》《Wahaha・Lalala》《約束の旅

《今時は流れて》《Voice of the planet》《Starry eyed child》《ありがとう》《少しずつ

歩いてゆこう～ア・カペラ～》全9曲